

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

「であい ふれあい ひびきあい」
 ○基礎・基本の確実な定着を図り、自ら学び続けようとする子を育てます。(知)
 ○人権教育を推進し、みんなが安心して豊かに生活しようとする子を育てます。(徳)
 ○自らの健康や安全に関心をもち、健やかでたくましい体をつくろうとする子を育てます。(体)
 ○家庭・地域・学校が連携を深め、地域・社会に積極的にいかかわろうとする子を育てます。(公)
 ○様々な人とのふれあいを通して、自らの考えや視野を広げようとする子を育てます。(開)

教育課程全体で
育成を目指す資質・能力

<言語能力>
<自分づくりに関する力>

具体化した資質・能力

伝える内容を明確にする力 感じたこと、考えたことを言葉にする力
主体性・積極性

中期取組目標

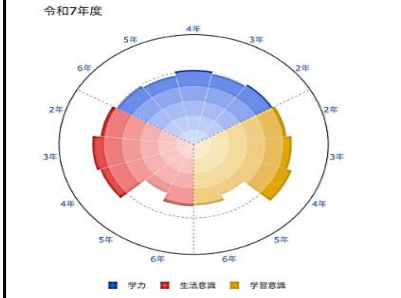
○子ども一人ひとりの思いを大切に、多くの人とのかかわりや体験活動を通じた主体的な学びの充実を図ります。
 ・一人ひとりが自分の思いを表現できる授業づくりを推進します。
 ・地域や家庭、関係諸機関と連携し、いろいろな人とのかかわりから、自他のよさをとらえる力を育みます。
 ・スマイル班などの活動を通して、互いのよさを認め合い、楽しい学校生活が送れるようにします。
 ○自らの健康や安全に関心をもち、データを活用しながら健やかでたくましい心と体づくりの充実を図ります。
 ・体力・運動能力の結果や健康観察の状況を踏まえながら、学校保健委員会や体力アップ活動を通して体力向上を図ります。

学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
学習指導	校内重点研究テーマを「主体的に学習に取り組み、自己の学びを調整しながら、思いや考えを表現する子の育成」とし、日々の授業や授業研究会を通して①児童が主体的に学習する具体的な姿を明らかにし、その手立てを追求していく。また、②他者との対話や協働を大切にしながら自分の学習を自己調整していくことができる児童を目指して、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させた授業づくりに挑戦していく。これらは③サブテーマにある「身に付ける資質能力を明らかにした授業づくり」を通して行っていくものとする。
担当	学力向上

学力向上に関わる本校の状況

(1)学力向上に関わる児童の実態
 令和7年度横浜市学力・学習状況調査の学力に関しては、学年によって多少の差はあるものの、おおむね横浜市の平均と同等な結果となった。学習意欲・生活意識に関しては、互いに関連し合っていることが分かるが、学力との関連は見られない。高学年は低い結果となった。さまざまな実態の児童が混同する教室で、個に応じた授業を実践していく必要性を感じる結果となった。令和8年度においては、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させた授業に挑戦していきたい。



(2)これまでの学校の取組状況
 週3回程度、朝の15分間を学習の定着を図る時間として設定してきた。また、水曜日の5時間目を30分とし、基礎学力定着の時間に設定している。さらに重点研究のテーマに沿って身に付ける資質能力を明らかにした授業づくりに挑戦してきた。

今年度の目標

主体的に学習に取り組み、自己の学びを調整しながら、思いや考えを表現する子の育成
 ～身に付ける資質能力を明らかにした授業づくりを通して～

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期
 ○身に付ける資質能力を明らかにし、その力を発揮している児童の姿を考え、その姿を実現するための手立てを考えながら日々の授業を行う。
 ○児童一人一人の学力や学習状況を見取り、個別最適な学びや協働的な学びを充実させる手立てを講じる。
 ○年度初めに上記の内容を踏まえた授業実践を行い、目指す授業の具体的な姿を教員で共有できるようにする。
 ○横浜市学力・学習状況調査の結果を分析し、日々の授業改善へとつなげていく。また、BIGデータを活用し、さまざまな角度から児童一人一人の実態を把握できるようにする。
 ○朝の15分間を学習の定着を図る時間とするとともに、水曜日の5時間目を30分間授業とし、基礎的な学力の定着を図れるようにする。

下半期
 ○上半期の成果と課題を明らかにし、成果となった手立てについては全体化し学校全体で実施できるようにする。課題についてはその分析を行い、他の方法や角度を変えた見方をして再度実践を試みるようにする。研究や日々の授業実践がその場限りのものにならないよう、積み重ねのある持続可能な取組みとなっていくよう努める。

豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
人権教育	①一人ひとりを認め、個を生かすために、日々の道徳教育の充実を図る。②人権週間では、講話や体験、こども会議を通して、自他の良さに気づき、互いに認めあう心を育てる。③自分の思いを表現できるように、スマイル班活動や異学年の交流の充実を図る。④子ども一人ひとりの思いを大切にするために、職員の人権に対する意識を高める研修を実施する。
担当	豊かな心

豊かな心に関わる本校の状況

(1)本校は、「黄色いベストさん(登下校の見守り)」「スマイルボランティア」など、地域や保護者の方々が多数ボランティアに参加していただき、その方々と連携をして児童を育てられる環境にある。こうした温かい環境の中で育っている児童は、明るく元気に毎日の学校生活を送っている。
 一方で、自分のよさを生かして活動したり、周囲と主体的に関わろうとしたりする姿には、まだ課題が見られる。また、友達関係に悩んだり、不安を抱えたりしている児童もおり、自他を認め合う力の育成が求められている。
 (2)これまでの学校の取組状況
 スマイル班活動(縦割り班活動)を通して、自他のよさに気づき、思いやりの心を育む取組を継続してきた。また、人権週間には外部講師を招き、様々な立場の人への理解を深めるとともに、どのように関わることが望ましいかを考える機会となった。様々な学習や活動に、広く地域の方に関わっていただき、豊かな体験をすることができた。

今年度の目標

自分の思いやよさを進んで表現するとともに、友達のよさを認め合う心を育む。
 様々な立場の人に対する理解を深める。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期
 ○校外学習や宿泊等体験学習、外部講師を招いた学習等を通して、多様な人と関わりながら主体的に活動する機会を充実させる。
 ○児童の実態に合わせて、日々の道徳教育や人権教育を行う。
 ○チーム担任制を取り入れ、多くの教員が関わることで、子ども一人ひとりのよさを多面的に捉える。
 ○スマイル班活動を年間を通して計画的に実施し、子どもたちの思いを生かしながら異学年での関わりを広げる。
 ○ペア活動(1-6年、2-4年、3-5年)の充実を図り、継続的な関わりの中で新たな自分のよさに気付いたり、自己有用感を高めたりすることができるようにする。
 ○学習や行事、異学年交流において、子ども一人ひとりの思いを尊重し、多様な他者と関わる経験を踏まえる。
 ○教職員の人権意識の向上を図るための研修を計画的に実施する。
 ○授業参観等を通して、道徳や縦割り班活動の様子を家庭・地域に発信し、連携の強化を図る。

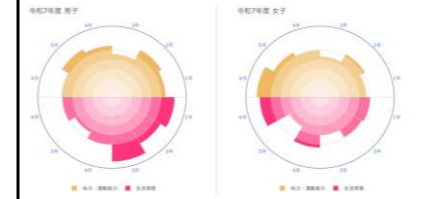
下半期
 ○ZSF(運動会)では、ブロック競技やブロック演技を通して、異学年で協力する活動を充実させる。
 ○全校遠足では、6年生を中心に計画や準備を進め、リーダー性を育成するとともに、スマイル班の仲の結びつきを深める。
 ○人権週間に、外部機関と連携した活動を通して、多様な立場の人への理解を深め、認め合う心や思いやりの心を育む。
 ○スマイル班子ども会議では、異学年と横浜プログラム等に取り組み、楽しみながら他者理解を深める機会を設定する。

健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
健康教育	①子ども主体で計画された運動集会や体力アップ遊びを定期的に行う。楽しく体を動かす機会を設定し、日常的に運動に取り組むことで更なる体力向上を図る。②家庭と連携し、特に運動、食育、歯科保健教育に力を入れる。③ICTを活用した学校保健委員会を通して、子どもが自身の生活や行動を振り返り、規則正しい生活を送ることの大切さや安全な行動の必要性に気づき、実践できるようにする。
担当	体力向上

健やかな体に関わる本校の状況

(1)健やかな体に関わる児童の実態
 ○横浜市体力・運動能力調査の結果は、全体として横浜市の平均をやや上回る結果となった。
 ○高学年(女子)は、テレビ等の視聴時間が横浜市の平均より長く、睡眠時間も短いことが分かった。



(2)これまでの学校の取組状況
 ○体育科では、体づくり運動(遊び)の指導において様々な運動を経験するようにし、体の柔軟性を高めることができるようになってきた。
 ○体育委員会が中心になって長縄大会、体力アップ遊びなど、児童の意見を反映させた取組を実施してきたことで、休み時間に外遊びをする児童が増えた。
 ○学校保健委員会では、けがの防止について問題提起をし、児童それぞれが、学校生活において安全に過ごすことができるようになってきた。

今年度の目標

○進んで運動に取り組める児童の数を増やし、運動習慣の定着と体力の向上を図る。
 ○児童一人ひとりが自身の生活を振り返り、規則正しい生活をしようという意識を高める。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期
 ○体育科の授業では、運動を通して自分の思いや考えを表現できる力を育成するために、お互いにアドバイスし合ったり、自分の活動の振り返りをしたりしていく。さらに、自身の体力や課題に気付くことで、体力向上に向けて主体的に運動に取り組もうとする意識を高めていく。
 ○楽しみながら体力の向上が図れるように、中休みに体育委員会が中心に外遊びの企画を運営し、運動に親しむ機会を広げていく。
 ○学校保健委員会では病気に負けない体づくりをテーマに、保健委員会を中心として規則正しい生活習慣や衛生的な生活行動についての発表などを行い、病気に負けない体づくりについて楽しく学ぶことができるよう取組を進めていく。

下半期
 ○体育委員会を中心に、体力アップビンゴや外遊びカードなど、休み時間に楽しく体を動かせる企画を計画し、継続的に運動に親しめる環境づくりを行う。
 ○運動を通して自分の成長や友達、クラスの成長が実感できるように体育委員会が中心となり長縄大会を実施する。
 ○学校保健委員会までの期間、こども朝会など発表の機会を利用して病気に負けない体づくりについての啓発活動を行い、併せてすごろくなどのイベントを行うことでクラス一体となって学校保健に関心を持って取り組むことができるように活動を進めていく。